



## 「ベンチャーとして社会に役立とう」

### —下條NCD名誉会長(VEC理事)がVEC関西支部とフジキン訪問—

VEC創立時からの主要メンバーで理事の下條武男 日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社(NCD、本社・東京都品川区)名誉会長・創業者が2月22日、VEC関西支部と株式会社フジキンの総本社(大阪市北区)、および同社のゲストルーム「うめきた創庵」を訪れ、小川洋史フジキン代表取締役会長兼CEO(最高経営責任者)、本田英行支部長(本田工業株式会社代表取締役社長)、澤村佳宏事務局長と懇談しました。

最初に訪れたVEC関西支部では月刊の機関紙「てんこもり」や1月と8月を除いて毎月、開いている交流会など、事務局から支部活動が説明されましたが、特に交流会に関して、「経営者、大学の先生、官庁の中小企業・ベンチャー企業(VB)支援担当者、ベンチャーキャピタル(VC)や金融機関、VB支援団体、文化関連団体などの代表者・責任者らに講師をお願いし、大阪産業創造館で開いている」と具体的に報告するとともに、講師に東京の経営者や女性起業家も招くなど多彩で、午後6時過ぎから開催し、会員は無料、非会員は「含弁当代」で2000円。講師の話だけでなく、参加者とも交流できるとあって、「毎回、40~50人ほどが集まり、お互いにネットワークを広げている」と交流会が好評であることを力説していました。

しかも、今年2月発行の「てんこもり」が137号を数え、交流会にいたっては1975年7月のVEC創立以来、ずっと続けているということで、「関西は活発やな」と大阪・四天王寺近くの生まれの下條氏は、大阪弁で応答。本田支部長が本田工業(HONDA DYNAMICS)の事業を「自動車・車載機器の走行模擬試験装置や建築・建材の耐震・風圧試験装置、風洞関連の試験装置などを設計・開発している」とパンフレットをもとに説明しながら、「当社はVEC創立の数年後に債務保証を受けた。その時の審査委員長は本田宗一郎氏だった」と振り返ると、下條氏も「私は1967年にNCDを創業したが、採用した人が仕事ができるようになるまでの教育に、ある程度の時間がかかり、この間は給料を払うだけ。これを繰り返しながら組織をつくり、何とか乗り越えてきた」と話はVECの活動と経営を中心に進展。その後、3人はフジキンに移動しました。

フジキンの小川会長と下條氏はVECの母体となった日本ベンチャー・ビジネス協会(71年8月設立)、関西ベンチャー・ビジネス協会(同72年8月)で、ともに活動したという旧知の間柄。当時の社名は「富士金属工作株式会社」で、常務だった小川氏は実兄の小川修平副社長(79年11月社長、2004年9月逝去)の代理として会合に参加。本田氏を交えて、東西の協会が国際シンポジウムを共催したことなどに話が及ぶとともに、下條氏が日本ベンチャー・ビジネス協会の代表幹事を務めたこともあって、「今のVECがあるのは下條さんのお陰」(小川氏)、「小川さんは若手の元気なメンバーだった」(下條氏)と会話が弾みました。

その後、訪れた「グランフロント大阪」にあるゲストルーム「うめきた創庵」では、淀川や大阪湾、六甲の山並を眺めながら、小川氏が「関西を元気にするには淀川をもっと活用しなくては……」「大阪城を“だいはんじょう”と読んで、安土城など関西のお城を全部復活させて観光を活発に」と主張すると、下條氏も「和食がユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録されたが、和食を代表する懐石料理は京都で生まれた。関西が発祥の料理もビ

ジネスも多い」と関西を巡って活発に意見を交換。その後、「創庵」の大きなスクリーンに映し出されたフジキン産のチョウザメ(「超ちょうざめ」「キャビア・フィッシュ」)へと話題が発展しました。

「超ちょうざめ」はフジキン(Fujikin Carp Group)が流体(ながれ)と環境を超精密に制御するバルブ(弁)の技術を駆使して、92年に民間企業として日本で初めて人工孵化に成功し、98年には世界で初めて水槽での完全養殖を実現。現在、同社の「万博記念 つくば先端事業所」(茨城県つくば市)の広大な敷地内の水槽で、完全閉鎖循環濾(ろ)過方式により、数万匹が飼育され、「古代魚による最先端のヘルシーな和食」の“食材(財)”としてホテルやレストランなどに提供されています。

つくば先端事業所はTBS系列で昨年10月~12月に放映されたドラマ「下町ロケット」のロケ地選ばれ、同社は撮影用にロケットエンジンのバルブも製作しましたが、小川氏は「当社は昭和5年(1930年)の創業で昨年が85周年だが、いつも“ベン(弁)チャレンジャー”の精神でオンリーワンを目指している」と強調。

下條氏も「アベノミクスで以前より、『ベンチャー』という言葉が使われるようになったが、最近、ベンチャーの理念を再確認する必要があると思っている。ベンチャーというのは、新しい製品やサービスを開発し社会に役立つとともに、従業員が働く喜びを味わえるような会社で、『利益は社会に役立った対価だ』という考え方が重要だ。さらに“世界平和”という大きな目標も掲げたい」と、ともに年齢を感じさせない口調で語り合い、経営を支える理念、精神、志を巡って話が尽きませんでした。

「うめきた創庵」は高野山大学フジキン小川修平記念講座、フジキン小島・小川科学教育振興基金、“交流実践誌”の「THEZEN」、技術情報誌の「ながれとともに ながれをこえて」、知財・技財・人材戦略情報誌の「New テクノマート SO創」、「うめきたナレッジセンタ」などと並ぶ同社のCSR(企業の社会的責任)活動の一環として2013年8月に開設されたもので、「VEC関西支部の紹介で、経営者や各分野の専門家らが講座や交流会を開く場として無料で使用できる」。まさに「社会に役立つ施設」です。

右下の写真=下條氏(手前左)、小川氏(同右)、本田氏(下條氏の奥)

〈記事は下條氏に随行取材した松浦 利幸(ジャーナリスト、元・日本工業新聞=フジサンケイ ビジネスアイ記者)が執筆〉



(フジキン創庵での懇談)



(フジキン総本社でも話が弾む)

#### ~株式会社フジキン 小川洋史氏(代表取締役会長 兼 執行役員 会長 兼 CEO)が春の叙勲を受章されました~

長年の業界への貢献と発明考案へのたゆまぬご努力が認められ、「旭日双光章」を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

小川氏はすでに平成13年黄綬褒章(発明考案とその育成者に授与される)も受章されています。

VECにおきましても長年にわたりご支援ご協力を賜わっておりまして、その功績は万人が称賛いたしております。

「下町ロケット」では「フジキンつくば先端事業所」を撮影協力されるなど多方面でご活躍されており、さらなるご発展を続けられることを確信しております。

## 「高校生からシリコンバレー起業教育」

「世の中の問題を解決したい」。私たちKAPION（カピオン）は、その志を遂げようとする研究者や研究開発をする企業、技術系のスタートアップ（起業家）に対して研修プログラムの提供、個別にメンタリングを東京や大阪にて実施しています。

技術系スタートアップの場合、未発展の市場から顧客も気づいていない問題を見つけ出し（これがマーケティング）、その市場の発展と共に革新的な術の違いの解決策を商品・サービス化して、世の中に提供するまでのキャズム(死の谷)を超えるところまでが、まず最大の難関です。日本には世界に誇る技術が数多くある中、いざビジネス展開となると技術後発国にリードを奪われ市場シェアを一気に逆転される現状も多く起こっています。それはなぜか？

シリコンバレーには技術が集積しているわけでもないが、あの場所には世界中から技術が持ち寄せられ、技術を商品化・事業化しようとするスタートアップがあります。そこにノウハウが蓄積され、日本でもよく知られているシリコンバレー発の技術系スタートアップが生まれ、またそこに富をもたらし、人が集まり、ノウハウが更に次々に広がるエコシステム（支援の循環環境）が構築されています。私たちKAPIONは、そのエコシステムが日本でも独自に機能するように行政や大学、民間企業にも働きかけをしています。

例えば、NEDOのSUI（スタートアップイノベーター）事業、TCP（テクノロジーコマースリレーションプログラム）事業などの研修にて弊社の技術系スタートアップ研修プログラムを採用されています。その他、慶応義塾大学リーディング大学院プログラムでも大学生向けにアレンジしたものを提供しています。

昨今日本から大勢の起業家がシリコンバレー詣でをしていますが、KAPIONは2017年夏より、逆にシリコンバレーの起業家予備軍とも言える現地の高校生と日本の高校生を一つのチームにして、シリコンバレーの起業マインドのユニークな体験プログラムを企画しています。その前段階としてまずは今年の夏に、技術系の大学に進学する国内の高校生を対象とした体験プログラムの実施を実施し、シリコンバレーの高校で起業教育を担当している教員を招聘し、まずは国際高校生テクノロジープランコンテスト&集中合宿を開催します。このワークショップでは最初からグローバル化に対応すべく、基本的に全てを英語で行う予定です。ご興味のある方はお気軽にメールよりお問い合わせください。学生に向けた参加募集については、4月より順次メルマガや情報媒体にてご案内いたします。

### 会社概要

社名：株式会社カピオン

住所：〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 5F KS-F

本社：〒640-8322 和歌山市秋月198-14

電話：03-6869-0866（平日午前10時～午後5時）

メールアドレス：k2a0pli4on@kapion.net

事業内容：スタートアップに向けた

資金調達への準備SULプログラムの提供

代表：曾我弘・能登左知 設立：2011年12月

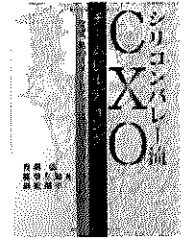
HP：www.kapion.net



写真：能登・曾我（左から）



～投資を引き出すための  
ビジネスプラン作成ガイド～



～なぜ、あのスタートアップは  
投資を受けられたのか～

## ～ベンチャーニュース（コラム）から～

定期的にVECから発信しておりますコラムの中から今回「ドローン規制」についてご紹介いたします。他のニュースリリースなども是非ご覧頂きご活用のごお願い申し上げます。

※2016年4月27日 「ドローン規制」 VEC理事長 市川 隆治

4月20～22日に幕張メッセで開催された（一社）日本能率協会主催の「国際ドローン展」に足を運んでみた。会場にはドローンメーカーのブースのみならず、警備保障会社のドローンを活用した防犯システムのブースもあり、来場者で賑わっていた。実際にドローンを飛行させるデモンストレーションコーナーもあり、「ブーン」というドローン独特の飛行音で雰囲気盛り上げていた。

ドローンの弱点として風雨の影響と物資運搬手段とする場合の積載量の限界を考えていたが、最近のドローンは全天候型で、かつ、最大積載量30キロという大型機も登場し、空撮のみならず、水面に着水して水中撮影もできるものまであった。AIを活用すれば悪天候の中でも自ら判断して最適な飛行方法を見つけることができるという研究もなされている。ドローンメーカーからの相談を受け、ソリューションを提供するコンサルタント業務をこなす企業も既に出現しているということだ。

ドローンは単に空中を飛ぶだけのものではなく、いかに産業用やインフラ点検用、災害調査用等として実社会に活用していくかという段階に入ってきている。

ちょうど1年前、総理官邸の屋上に黒塗りのドローンが不時着して世間を騒がせたが、そういうことのないようにいかに規制をかけるのかも大きな課題である。会場では特別講演の中に国土交通省と総務省の担当課長による航空法及び電波法関係のドローン規制についての説明があった。特に前者については椅子が足らずに大勢の立ち見参加者が出るほどの関心の深さがあった。

それぞれの規制の詳細は各省のホームページに譲るが、共通して感じられたのは、①リスクに応じた規制のかけ方を工夫すること（法律による許認可かガイドラインか業界の自主規制か等）、②関係省庁、メーカー、利用者等、幅広い構成員から成る官民協議会を立ち上げ、単に規制するだけではなく、新産業の創出や国民生活の質の向上という観点に配慮した進め方をしていること、③国際的なルールとの協調性を図っていることである。

考えてみればこのような取り組み方法は、経済産業省が長年我が国の産業を育成していく際に実施してきたやり方である。国土交通省や総務省といった規制官庁がこのような方法論を取り始めたことは評価に値する。実は同じようなことが労働行政にも言える。数年前に職業安定局の派遣・有期労働対策部の中に民間人材サービス推進室が設けられたのである。これも規制一辺倒からいかに民間の人材サービス産業を育成していくかという全く新しい政策観点を取り入れたものである。もちろんこうした取り組みが成功するかどうかは何年か後に検証してみるしかないが、とにかく政策立案の方向性に変化が見られることに対しては評価したい。

規制の国際協調も重要である。これからのベンチャーは国内市場だけを狙うのではなく最初からグローバル市場に打って出るborn globalという観点が必要であるとは最近日本のベンチャー関係の学者から出ている掛け声である。その際に国によって規制が異なるようでは困るのである。

総理官邸の事件からわずか1年で関係省庁の取組がここまで進んできたのは大いに評価していいのではないだろうか。大地震に際して寸断された道路を尻目にドローンが必要物資を集積所から避難所に届けることができる日ももうすぐだ。

### ～VEC関西より～

・下條会長はVEC創業時からVEC設立にかかわられ、多分小川会長や私などはそのあと交流会に参加し始めたことと記憶しています。六甲山の山小屋で夜を徹して語り明かした懐かしい思い出です。浜松で東西のメンバーが集まり討論したこともありました。当社もVECの債務保証を戴き、半導体風速計の開発を行い今は別会社に行っていますが今でも風速センサーとして各方面にご利用いただいています。（本田）

・くまモンが堺筋本町のアンテナショップに来ると情報を頂き会いに行って来ました！最初は写真だけでも思っていたのですが、ハグができるのと事！50名くらい並んでいましたが私もその一人となりました。ハグして感極まり涙ぐまれる方々もおられました。私も「熊本が早く復興出来るのを祈ってます！」と。大分県に私の両親の実家があるので他人事ではありませんでした。（藤本）

・以前の職場に勤務していた時代、新入行員リーダーをしており当時新入生で私が指導した女性と久しぶりに会う機会がありました。現在、彼女は20数名の部下を持つ女性役職となりバリバリ働く企業戦士となっております。

お互いの近況など話しながら私を「先輩」と未だに呼ぶかわいい後輩が企業の女性リーダーとなったことに私自身も何故だか満足感でいっぱいでした。（濱本）

・皆様もご承知のとおり株式会社フジキン小川会長が春の叙勲を受章されました。日頃何かとお世話になっておりますVECといたしまして、その功績に心から御祝い申し上げます。カピオン様は日本の高校生に起業家マインドを育成のため新企画を計画されております。ご注目下さい。（澤村）

### <交流会の予定>

平成28年7月4日（月）・鹿野工商総合区創設者、鹿鳴温泉酒店  
台湾紅烏龍茶の創業者 潘 永豊 様  
・台東県立豊田国民中学（台湾）元校長  
国立編譯館英語教科書 編審委員、  
台東縣政府聯外語文 顧問 林 哲次 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部  
〒541-0053 大阪府中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階  
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293